

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	統合分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	総合看護技術	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次	学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担 当 教 員	伊藤 庸子	実務経験と その関連資格	総合病院循環器系内科病棟に看護師として勤務		
《授業科目における学習内容》					
これまで学んだ基本的な看護技術の知識・技術をシミュレーション学習や事例を通して、対象のフィジカルアセスメントを実施し、対象に必要な看護援助を考え、主体的に学ぶ。卒業時到達目標に向け技術練習を行い、臨床看護の場で活用していくことができるように、状況に応じての援助方法を学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
授業参加状況、演習への取り組み、まとめ試験で総合的に評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、臨床看護総論、呼吸器、循環器、血液・造血、消火器、内分泌代謝、脳神経、腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯科・口腔、人体の機能と構造、疾病の成り立ちと回復、臨床外科総論、各論、看護技術がみえる1・2、臨床看護、機能障害からみる看護過程1・2・3 中央法規					
《授業外における学習方法》					
1.授業を理解するために、既習科目を復習しながら事前・事後の課題に取り組むこと。 2.演習では、手順や留意点、イメージトレーニングを行い、主体的に演習に臨む。既習の看護技術の講義内容をよく復習し、ワークシート、WEB教材や看護技術のサブテキストを活用して、毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進める。					
《履修に当たっての留意点》					
評価は、各まとめ試験ですが、すべて合格していないと単位認定の対象になりません。事前事後課題は、提出期限までに提出してください。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	シミュレーション学習の進め方、学習内容を理解し、主体的に学ぶ。	AV機器、各教科書、看護技術が見える1・2	指定した教科書を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	総合看護技術の目的と方法の説明。シミュレーション学習の進め方、学習内容、事例の提示		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者のシミュレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	シュミレータ、聴診器各教科書、看護技術が見える1・2	事前学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	事例展開、シュミレータを活用したフィジカルアセスメント、グループワーク		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、聴診器各教科書、看護技術が見える1・2	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、聴診器、各教科書、看護技術が見える1・2	事後学習:事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
		各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施、振り返り、まとめ		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環機能障害のある患者のシュミレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	シュミレータ、聴診器、各教科書、看護技術が見える1・2	事前学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	事例展開、シュミレータを活用したフィジカルアセスメント、グループワーク		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、聴診器、各教科書、看護技術が見える1・2	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	対象に必要な看護援助の実施		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事後学習:事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
	各コマにおける授業予定	対象に必要な看護援助の実施、振り返り、まとめ		
第9回	講義 形式	授業を通じての到達目標 脳血管疾患患者のシュミレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事前学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	事例展開、シュミレータを活用したフィジカルアセスメント、グループワーク		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 脳血管疾患患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 脳血管疾患患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術、レポート	事後学習:事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
	各コマにおける授業予定	対象に必要な看護援助の実施、振り返り、まとめ		
第12回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 輸液ポンプの操作、点滴静脈内注射の実施を根拠に基づき安全に実施できる。	教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術、ワークシート	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	輸液ポンプ、点滴静脈内注射の実施		
第13回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 12誘導心電図の測定、包帯法の実施を根拠に基づき実施できる。	教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術、レポート	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	12誘導心電図の測定、包帯法の看護技術		
第14回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の実施を根拠に基づき安全・安楽に実施できる。	吸引用シュミレータ、吸引器、酸素吸引、教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の看護技術		
第15回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 静脈血の採血の実施を安全・安楽に実施できる。	採血・静脈注射シュミレータ、教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による静脈血の採血		